

**将来は予想できないが、切り開くことはできる**

「ドラッカー先生の授業」ウィリアム・A・コーン ランダムハウス講談社より

このお正月から読んでいたドラッカー関連本の中で、とっても興味あり、そしてわかりやすい本でした。

「ドラッカー先生の授業」著者のウィリアム氏は実際にクレアモント大学院大学にてドラッカー博士の授業を受けた内容を書いております。その中の一部をご紹介します。

**将来は切り開くことができる (186P)**

将来は予測できないが、切り開くことはできる」というメッセージは繰り返された。

先生が強調したのは、プランニング、とりわけ戦略プランニングは難しく、リスクも大きいですが、これを実践することはマネジャーにとって主な職務の一つである、という点だった。

**戦略プランニングは、将来における判断とは無関係です。」**

**判断は現時点においてしかくたせないからだ。**

**先生の趣旨は、明るい将来を築くために今の時点で判断をくだすということである。**

つまり、この先どのように状況が変わろうとも、目標を確実に達成できるようにするのだ。

ここで重要な点として、まずは目標を決めなくてはならない。

自分たちの望みは何か、ということである。

それが決まってはじめて、目標の達成に向けて今何をすべきかが見えてくる。

将来は自分たちの手で切り開かなくてはならない」とドラッカー先生が口をすっぱくして説いた陰には「プランを立てる際には、具体的な代案を考えておく必要がある」という考え方があるということだった。プランを実行に移してからは、折りに触れてプランに立ち返るとともに、現状に応じて軌道修正を行わなくてはならない。

最も重要視されたのはプランの実行、つまりは行動である。

先生の授業を通して、誰でもたいていは自分や会社の将来を切り開けるのだ」と悟らされた。

中小企業の経営者にとっては、会社を成長させることがこれにあたる。

**将来を切り開くプロセス (191p)**

ドラッカー先生は「誰であろうと、将来を切り開くためには、まず目標を定めなくてはならない」といってきた。しかも、目標は明快そのものでなくてはならない。

目標が定まったら次は、将来的に目標を実現するために、今何をすべきかを見極める必要がある。

**先生は、現在のトレンドがこれから先も続くと思いきは危険だと、釘をさしていた。**

これはやややっかいな点である。

どうすれば、出発点となった過去を頭から消し去ることができるのだろうか。

いつだったか、授業のノートをじっくり読み返していたら、先生が実際に語った言葉は私が記憶していた中身とは食い違っていたことがわかった。

先生は「プランナーは過去を頭から消し去るべきだ」とは述べていなかった。

**むしろ、将来は過去や現在の延長線上にある」という思い込みをいましめていたのだ。**

先生は、なによりまず将来の目標に視点を向けるように、と私たちに訴えた。

そのうえで現状を見つめ、目標に近づいていくために必要な行動をとるべきだ、というのだ。

目標への道のりを進むあいだ、環境や状況は移り変わっていく。

だが、どう変わるかは予測がつかない。

そのときで軌道修正を図らないかぎり、望む将来は決して切り開けないだろう。軌道を修正しながら前へ進めば、やがて初志を貫徹できるのだ。

月面を目指す宇宙飛行士を考えてみたい

彼らは、38万キロにおよぶ全軌道を、最初の予定通りに飛んだのではない。

あらかじめ決められたルートにしがみついたら、月への到着は実現しなかったはずである。

飛行士たちは、その都度必要に応じて軌道を修正しながらついに月面へと到着したのだ。

先生が説いたとおり、私たちは最終ゴールから目をそらさずに、必要な判断をくたさなくてはならない。従来の製品、サービス、習慣、ビジネス手法などにこだわってはいけない。

どのようなトレンドも永久につづくはずはないのだから、「軌道修正」が欠かせないのだ。

例えばゴールが一定であっても、そこにたどり着くために必要な戦略は変わるかもしれない。

シナリオを検討すると、最終ゴールを目指す道のりにおいて、どのような問題点、チャンス、リスクに遭遇しそうかが見えてくる。重要なものだけを考慮すればそれでよい。

ビジネスをする上で、事業環境、ライバル企業の動き、新しい規制の導入、他国の通商停止ほか、予想外の出来事によって自社の戦略があおりを受け、右往左往するような事態は避けたいものだ。

このため、危険を避け、問題に対処し、チャンスを活かすためには、あらかじめ備えをしておかなくてはならない。だからこそ、「プラン B」が欠かせないのだ。

忘れてはならない点がある。たとえ、過去のトレンドと現状をもとにプランの分析をはじめたとしても、同じ状況が永遠に続くと考えるべきではないのだ。

過去のトレンドと現状は、あくまでも出発点にすぎない。

状況はすべて時間と共に移り変わっていく

将来のゴールから目をそらさず、そこに近づこうと努力する以上は、状況の変化に応じて次々と判断を下し、新しい戦略を取り入れることになる。

すべては現状分析からはじまる。

これは「環境調査」ともよばれているようだ。私はこの現状分析をめぐっては、

情勢 第三者 他社 自社、という4つの視点からのアプローチを好む。

## ドラッカー先生の教え

ドラッカー先生が折りに触れて語っていたように、将来は予測できないが、切り開くことはできる。

将来がどうなるか思い悩むのはやめよう

今後のなりゆきなど、だれにもわからない。

自分にはどうしてできないのか、などという発想は決してすべきではない。

それより先、目標を定め、達成には何が必要かを考え、状況分析するのだ。

それが出来たら次は行動を起こす番である。

自分の手で将来を切り開いた人々は大勢いるのだから、きっとあなたもできるはずだ。

## <経営のヒント>

将来は、過去から現在の延長線上にはありえない！ 未来が現在を飲みこんでいるのです。

未来は自らの手で切り開くのだ！ そんな強いメッセージをドラッカー博士は語っている。